

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成21年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4070702081		
法人名	有限会社 グローバルケア		
事業所名	グループホーム グローバルケア		
所在地 (電話番号)	〒807-0873 福岡県北九州市八幡西区藤原三丁目10番15号 (電話) 093 - 691 - 3021		
評価機関名	特定非営利法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5 - 27		
訪問調査日	平成21年12月8日	評価確定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】 (21年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤(専任4人 兼務4人)	非常勤 3 人 常勤換算 6,3 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築 6年
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1カ月 50,000 円		

(4) 利用者の概要(10 月 25 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	78 歳	最低 67 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・白土医院 ・戸畑けんわ病院 ・向野眼科医院 ・菜の花クリニック
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者がどのような状況の中であっても、自分らしく暮らしていけるように、職員一同が、家族の一員として、一人ひとりの尊厳を大切に、生きがいづくりの支援をしていく」という理念を、管理者と職員が協力して、実現に向けて取り組んでいるグループホームである。住宅地の一角にあり、家庭的な雰囲気の中、散歩やドライブ、リハビリ体操、学習療法、24時間体制の医療受診などで、心身機能の維持、向上を目指している。オーナーが作成する「花だより」は利用者の多方面をとらえ、一つの物事を大きく膨らませ、家族以外にも、見た人の心を穏やかにさせるものがある。また、利用者職員は、地域の敬老会、バザー、盆踊り大会に参加したり、ホームの防災訓練に案内を出したりして、地域との交流を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は7件であるが2件は改善されている。今後は「運営推進会議を2ヶ月毎に開催」「市町村との連携を密にしてい」「人権教育・啓発活動」「同業者との交流」「防災訓練と災害時の非常食、飲料水、毛布等の備蓄」の5件である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で意見を出し合い、管理者が取りまとめている。出された意見の中で改善点を全員で話し合い、外部評価結果と照らし合わせ、職員一人ひとりが、目標を持って改善に向けて努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は一年に1回くらい開催している。2ヶ月に1回の開催が望まれているので、会のメンバーに声をかけ、出席してもらうようお願いし、有意義な運営推進会議として、発展していけるように努力されることを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームでの生活状況を掲載した「花だより」を定期的に発行し、家族に送付している。家族の訪問時には利用者の生活の様子、変化等の報告を詳しくして、家族からの意見や苦情を聴き出しているが、なかなか出てこない。家族会はあるが、家族だけで気楽に話し合える機会を作ることを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、老人会に加入し、敬老会や地域のバザー、盆踊り等に積極的に参加している。利用者の散歩中には、挨拶し、立ち話をしたり、声をかけ合い、交流を図っている。地域住民が気軽に訪問できる環境と、介護に関する相談窓口の設置などが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、地域生活の継続支援と自分らしく暮らし、生きがいを見出せる支援を謳った理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1階、2階の入り口に理念を掲示し、職員が理念に触れる機会を作り、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のバザーや敬老会、盆踊りなどに参加している。ホームの消防訓練時には地域に案内を出しているが、参加協力は今のところ得られていない。		地域の一員として、地域活動への参加やホームに遊びに来てもらうなど、地域住民との交流に積極的に取り組んでいくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に伝え、全員で話し合い自己評価に取り組むようにしている。評価結果については全職員に報告している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は7月に運営推進会議を開催、利用者、家族、民生委員、ホーム職員が参加し、現状報告を行っている。行政の参加を依頼しているが、曜日の問題で欠席されることが多い。		有識者や地域の方の協力を得て、会議に参加してもらえようようにホーム側から働きかけ、定期的に運営推進会議を開催することが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会や講習会に参加している。		市町村との連携を積極的に行い、協働関係を築いていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在1名、日常生活自立支援事業を利用している。制度についての資料を準備し、必要と思われる方には活用できるよう支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便り(花だより)を発行し、利用者の生活状況を報告している。また、家族来訪時に健康状態や日常の様子を報告し、金銭簿を確認してもらいサインをいただいている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、定期的にアンケートを実施している。今年度、家族会を設け、意見や苦情が表せる機会をつくっている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職がやむを得ない場合は、引き継ぎの期間を設けるなど配慮に努めている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用にあたっては性別や年齢等を制限していない。定年後も本人のやる気や能力を尊重し、継続雇用している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	職員に対する、人権教育研修や、啓発活動はしていない。		管理者は、高齢者の人権尊重のために、職員等に対して人権教育研修会や、啓発活動に取り組んでいくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の研修会に参加している。研修計画を立て、12月より内部研修を実施する予定となっている。		内部、外部研修の記録を残し、全職員が共有できるよう体制づくりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列グループ内での交流は実施しているが、地域の同業者との交流は十分ではない。		他グループホームへの見学や相互訪問などの交流を通じて、サービスの質の向上や職員育成に繋げていくことが望まれる。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は見学から始め、他の利用者と一緒に食事をしたり、宿泊をしてもらうなどしながら、馴染めるよう家族等と相談し、納得してもらい、利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごすながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごす中で、不安や喜び、楽しみなどを知ることにより、共に支え合う関係づくりに配慮している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に過ごす中で、一人ひとりの思い、暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聴き、毎月ミーティングの中で職員間で話し合い、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。状態に変化が生じた場合は、その都度計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	学習療法やリハビリ体操を取り入れ、利用者の心身機能の低下防止に努めている。また、系列グループと合同での行事や花見などを行い、利用者同士の交流の機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医の受診は家族同行の受診となっているが、やむを得ない場合は、職員が同行することもある。また、訪問歯科や訪問マッサージの利用もできるようになっている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成し、家族、医師、看護師と話し合い、方針を共有している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう、また、個人記録などの個人情報の取り扱いにも配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、本人のペースに合わせて、その日に本人がしたいことを優先しながら柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きや茶碗拭きなど利用者と共に、職員は弁当を持参し、利用者と同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切にしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回(月・水・金)の入浴日となっているが、利用者の希望に応じて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、台拭き、茶碗拭き、カレンダーの日めくりなど、利用者の力を発揮してもらえ場面を作っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、利用者の希望に応じて、近隣の散歩や買い物に出かけている。また、月に1回はレクリエーションを兼ねて外出し、戸外でお弁当を食べたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることへの弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防訓練を実施している。地域の方にも参加を呼びかけているが、参加には至っていない。		引き続き、地域への呼びかけを行い、協力体制を整えるとともに、非常用の食料、飲料水などの備蓄の準備が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養師による栄養指導、誤嚥指導、食事摂取指導を受け支援している。食事、水分の摂取量を毎日記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節がらクリスマスツリーが飾られている。リビングのソファーには利用者が集まり、雑談をするなど家庭的な雰囲気を大切にしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、テレビ、仏壇など、利用者の使い慣れたものを持ち込んでもらい、利用者が、居心地良く暮らしていけるように配慮している。		